



第 22 回・最終回

選挙で学ぶ北欧のこども・若者

若者の投票率の低さや、女性議員の数の少なさを嘆く声が聞かれます。「障害者が十分な選挙情報を得られなかった」という苦情も、総務省に寄せられました。

対照的なのが北欧です。投票率は 8～9 月分割をキープ。若者の投票率も高いのです。各党のホームページには、知的なハンディのある人にも分かりやすいページや、目が見えない人のために音声に変換しやすいページが設けられています。

比例代表制をとる北欧諸国では、候補者リストを載せた政党ごとの投票用紙「リスタ」①が、街のあちこちに置かれています。

Nr.	Kandidat ved stortingsvalget	Stryk
1	Jens Stoltenberg	☐
2	Marit Nybakk	☐
3	Jan Behler	☐
4	Britt Hildeng	☐
5	Marianne Marthinsen	☐
6	Særa T. Khan	☐
7	Truls Wickholm	☐
8	Kjell Erik Øie	☐
9	Karin Yrvin	☐
10	Khalid Mahmood	☐
11	Anne Lise Ryel	☐
12	Idar Eliassen	☐
13	Gro Bratteli Jamholt	☐
14	Olav Tønsberg	☐
15	Karima Abd-Daif	☐
16	Ivar Christiansen	☐
17	Eva Semmerud	☐
18	Balasingham Yogarajah	☐
19	Julie Ledrup	☐
20	Tore Lundberg	☐
21	Rupinder Bains	☐
22	Lotte Grepp Knutsen	☐
23	Rune Gerhardsen	☐

① 投票用紙「リスタ」。候補者の名前の右側に並んでいる口は、気に入らない候補者に×をつける欄です。名前の左側には、2桁の数字が書き込めるようになっています。ここに、自分の好みの順位を書き込むのです。このようにして、党と人と両方を選ぶ仕組みです。

有権者は意中の党のリストを選び、投票箱に入れるのですが、順位を変えたり、気に入らない候補者に×をつけたり、書き足したりもできます。

2005 年 9 月に訪ねたノルウェーは、選挙戦の真っ最中でした。

街の目抜き通りに、緑や赤のシンボルカラーの「選挙小屋」^②が政党ごとに建ち、選挙ボランティアがコーヒーやあめを勧めながら、詳しいパンフレットを手に、党の政策を熱をこめて説明していました。



②
選挙が近づくと、街の目抜き通りに、思い思いの趣向をこらした各党の選挙小屋が並びます。

市民も真剣に質問していました。

1971 年には女性たちが、男性候補に軒並み×を付け、女性

の名前を書き加えるという組織的作戦を展開。市議会に女性議員を大量に送り込みました。

このような歴史を経て、1986 年には 18 人の閣僚のうち 8 人が女性という内閣が誕生しています。

リストと選挙小屋は、子どもたちが民主主義を学ぶための、優れた小道具にもなります。

スウェーデンの中学校で、選挙と民主主義を1週間かけて学ぶ様子が、ユーチューブで公開されていました。

生徒たちは月曜日に選挙の基本を学んだ後、各党の選挙小屋を訪ねてインタビューします。水、木曜日にこれらをまとめ、各政党の主張を比較しながらクラスメートの前で発表。金曜日には、意中の政党の「リスト」を投票します。

こうした試みは 1960 年代から始まりました。1998 年からは全国統計が作成され、青少年庁の特別ページに学校ごとに載るようになりました。2010 年には 1,383 校、44 万人が参加しています。

選挙権も被選挙権も 18 歳からあり、これが若者の選挙への関心を高めています。デンマークでは、さらに 16 歳まで引き下げ



る案も検討されています。

市議は必要な手当のほかは給料なし。現職の教員、看護師、ヘルパー、警官など、あらゆる職種の人が市政に参加していることも、若者の政治への関心を深めているようです。

子どものころから政策を学んで選ぶという「血の通った民主主義」が、日本でも芽生えることを願います。

編集部註：本連載は、小社から刊行している『誇り・味方・居場所—私の社会保障論』（2016 年 3 月 10 日発行）から選択して掲載しております。初出は毎日新聞朝刊に月 1 回掲載された「私の社会保障論」（2011 年 5 月～2013 年 9 月）です。したがって、記事中の人物・名称・活動・事物などで現在は亡くなっている方や変化している場合もありますのでご了解のほどお願い致します。

年齢別投票率格差

国レベルの議会選挙について、16～35 歳の投票率（％）と 55 歳以上の投票率（同）の差をポイントで表したもの。経済協力開発機構(OECD)が発表している。格差が最も大きいのは英国で 38 ポイント。25 ポイントの日本、23 ポイントの韓国が続く。北欧はスウェーデン 3 ポイント、デンマーク 6 ポイントと、年齢による投票率の格差が少ない。



＊単行本
lifesupport-o.com/order33/books.html
＊電子版
<http://www.shinanobook.com/genre/book/3443>

『誇り・味方・居場所—私の社会保障論』
大熊由紀子著
B6 判変型 定価 1,600 円＋税